

# 「自閉症」理解と支援キャンペーン に寄せられた声！



(社)日本自閉症協会 北海道支部 道南分会

## A 看護学生 ( は複数、 は多数 )

広告を見るまで、誤解していた。正しく理解していくことの大切さを思った。そういう人が社会には大勢いる。理解してもらうために、このような新聞広告はとても意味があることだ。知る機会が無かったのでよかった。広告から誤解していたことを知り無知だと思った。初めての人にもわかりやすい広告でこれから理解したいと思う。A C 広告は、自閉症について端的にわかりやすく掲載している。いろいろな媒体を使って理解を得られたらよい。制作者の方と同じく、生まれつきの機能障害ではなく、心を閉ざしている状態でそれが引きこもりにつながっていくと勝手な想像で考えていた。広告を読んで、全く違うことがよくわかった。障害について正しく知っているのと知らないのでは、自閉症の人に対する見方が変わるので、今回アンケートで知ることができてよかった。正しい知識を持つ人が、増えていくよう今後も広告を続けてほしい。

- 今まで引きこもりや性格だと思っていた。正しく理解できていない人はたくさんいる。もっと広告で広めてほしい。自閉症をかなり誤解していた。地域ではまだまだ差別化もあると思う。今後も新聞・テレビで広告してほしい。自閉症は障害ではなく、本人の気持ちの問題だと思っていた。この広告で自閉症の人の見方が変わった。自閉症についてはドラマなどで知っていたが、今回の広告で地域の人に理解されていないことを知った。病気や心の病だというイメージがあった。ドラマ(今回の広告)で自閉症の人の見方が変わった。自閉症を障害と認識している人は少ないので、こういう活動を通し多くの人に自閉症の正しい認識がされるとよいと思う。
- この広告を見る機会がなかったら、心の病気と間違った認識をしたままだった。自閉症の人への見方が変わった。
- ・自閉症は外見でわからない分、偏見でみられたりするけど強く生きてほしいと思う。両親は辛く苦しいと思う。
  - ・周りに自閉症の人がいないこともあり、広告を見ても実際に何ができるのだろうか。何か力になってあげたい。
  - ・広告によって再認識ができた。世間では自閉症について、正しく理解されていないと思うので残念だ。
  - ・病気だと誤解していた。物事をよく理解できなくても、一人の人として生きていくことに価値がある。
  - ・見た目ではわからなければ、普通の子の基準で比べられてしまうので辛いと思う。
  - ・広告で生まれつきの機能障害だと知った。本人は望んで自閉症に生まれたわけではない。周りが理解をするべきだ。
  - ・障害だと知ると個性的な感性の持ち主なのだと思う。一人ひとりのペースにあわせて個性や能力を生かすべきだ。
  - ・思いをうまく伝えられなければどれだけ辛いだろう。けれど周りの目が変わればきっと楽しく生きられるはず。
  - ・自閉症が障害ということを知った。でもなぜ広告に出して社会に理解してもらう必要があるのかわからない。
  - ・自閉症は小児の時に発症する心の病だと思っていた。生まれつきの機能障害だということを知って驚いた。
  - ・以前実習に行った保育園に自閉症の子がいた。そのときにはうまく関わらず、自閉症について学んでから接したかった。今後、自閉症の子に出会ったらその子にあわせた接し方ができればと思う。
  - ・広告が印象的で、どんな障害かということを目で伝えている。偏見が無くなる社会になったらよいですね。
  - ・子どもの写真でインパクトがあった。その子自身の精神状態に問題があると思っていた。広告で見方が変わった。
  - ・治らない病気だと思っていた。病気や障害になりたくてなる人はいないが、自閉症の理解が深まってほしい。
  - ・人と接することができず引きこもりと誤解していた。キャッチコピーと写真は見る人に強く訴えるものがある。
  - ・「自閉症に生まれてきただけ」という言葉に思わず納得。誰が悪いわけでもない。本人も家族も、そう思った。
  - ・自閉症は、生まれてからの環境や人と接するうちに自閉症になると考えていた。無理解だった。
  - ・障害を持つ人もそうでない人も同じ社会の中で、互いに尊重しあって暮らすことが可能な社会になればと思う。自閉症の理解が進まなければ、バリアはいつまでも無くならないし、障害を持った人の暮らしやすさは変わらない。
  - ・自閉症についての理解や知識が無く、今回のアンケートを通じて興味を持った。実際に触れあってみたい。
  - ・いとこが自閉症で、新聞広告の文章と同じだと思った。外見ではわかりにくいし誤解されることが多く、一人でも多くの人がこの広告を見て、自閉症を知って正しく理解してほしい。
  - ・「自閉症に生まれてきただけ」というキャッチコピーは、人間の平等を表している。
  - ・頭では理解していても、実際に突然騒ぎ出したりしたら「変わった子」という見方をしてしまうかもと思った。
  - ・自閉症の特性を知っていても、自閉症について漠然とした考えでしかなかった。間違った捉え方をすることで、彼らの暮らしを生活しにくくすると思った。啓発活動をしていることは知らなかったが、うまく関わっていけたら...
  - ・心打たれる広告だった。突然大声を出したりしたときに、社会の人は偏見の目で見えるが、どのように関わったら良いのかわからないからだと思う。広告を読んで、以前より自閉症への偏見は無くなった。
  - ・時折、バスで自閉症の子を見かける。乗客の中には、とても嫌そうにその姿を見ている人もいる。多くの人に、もっと自閉症のことを理解してほしいと願っている。もしかしたら私たちが反対の立場だったかもしれません。
  - ・以前「光とともに」というドラマで関心を持った。身近にも自閉症の子がいて、それほど困った経験ではなく、少しのお手伝いが必要なだけだった。何かができるのであれば、ぜひ協力させて下さい。

## B 民間の会社の従業員とご家族 ( は複数、 は多数)

社会全体がもっと自閉症について理解するよう、広告のシリーズ化が必要。広告は新聞だけでなく、テレビやラジオであれば、自然に目・耳に入りやすい。何らかの形で地域の人たちに理解してもらえるような取り組みが必要。自分の周りに障害を持った人がいないので、特に注意することなく新聞を読んでいた。また、自閉症は病気程度にしか思っていなかったため、今後は理解を深めたいと思う。広告はもう少し大きく太い文字だと読みやすいと思う。最近メディア等で取り上げられており一応知識はある。自閉症は外見からはわかりにくいので、自閉症の方やそのご家族の方々が、今より暮らしやすい社会になるためには、国がもっと社会的に取り組んでいかなければならない。キャッチコピーが、心に強く重く響いた。広告を読むことで、一人ひとりが自閉症を正しく理解することができれば、自閉症の人が社会の中で暮らしやすくなると思う。広告のシリーズ化が必要では？

自閉症が障害だという事は分かったが、身近にいないのでその彼らとどう接したらよいのか分からない。自閉症という文字からイメージして、誤解している人は大勢いる。この広告を読むことによって一人ひとりが正しい理解をしていくことができれば、社会の中でも生活がしやすくなると思う。今までの考えが変わった。

- ・ 姪がダウン症で見た目で見分けて判断がつき、すぐ対応ができますが、自閉症の場合はなかなか理解されないと思う(いくつかの症例がある)のでご家族の方も大変だと思う。少しでも理解の輪が広がるとよいですね。
- ・ 自閉症が生まれつきの脳の障害であることを、多くの人が理解し一緒に生活できる社会になって行くことが必要だと思う。社会はスピードが速すぎる、もっとゆっくりでもよいのではないかと思う。
- ・ 自閉症は心の病だと思っていたので、カウンセリングなどで治ると思っていた。周りにそのような子どもがいないので、どう接してよいのか分からない。何となくですが、アンケートを読んで難しい障害だと感じた。
- ・ 自閉症 = 「心を閉ざす」そのため言葉を発しないと思っていたが、脳の機能障害ということを知り、病気や性格ではなく障害だということを知ってもらうために、何か支援していきたくと思った。
- ・ 「自閉症に生まれてきただけ」の言葉の重さを考えた。親だけの負担が過重にならないための施策が必要だと思う。
- ・ 先天的な障害であることを、ポスターにして病院や学校に貼ってほしい。親は、自分の子の障害をかくさないで。
- ・ 近年、発達障害の子どもの問題を社会がどう支援するべきか話題となっている。親が結集し政治や国を動かして、行政からの支援を充実してもらえるように、社会一般に発達障害の状況を正しく理解してもらうことが第一だと思う。支援については専門的な立場の人たちとタイアップして行くべきだ。
- ・ ひとつの個性と見ればよいのだが、とにかく周りとうまく「はじく」気持ちはどこかにあったのではないかと反省。
- ・ 身近に自閉症児がいるので、広告はこのことは認識している。さらに広く理解されて、温かく接してほしいと思う。
- ・ 自閉症は「病気」だと思っていた。アンケートではじめて「障害」ということがわかった。「病気」と「障害」の違いは大きい。治ることがないという文字を見て、何も知らなかった自分に気がついた。
- ・ 自閉症について知識・認識が低いと、本人・親・兄弟姉妹が傷ついたり、悩んだり悲しく寂しい思いもしている。一人でも多くの人に理解してほしいと思う。そうすればみんな、生きていくのが少し楽になる。

## C 一般 個人 ( は複数、 は多数)

理解はしていたつもりでも、まだまだ不十分であることをアンケートを機に認識した。さらに理解をしたい。新聞広告は、正しい理解をしてもらえるよい方法ですね。広告から理解してほしいという強い気持ちを感じた。新聞広告は料金が低いと聞いているが、今後も支援キャンペーンを実施すべき。さらにテレビの特集番組などで自閉症を理解してもらうようにした方がよい。微力ではあるが理解者の一人になりたい。

新聞広告を機に、自閉症の人たちがいることを知り、少しでも理解に努めたいと思った。

- ・ 自閉症は引きこもりの心の病だと思っていた。生まれつきの障害だとは思わなかった。近所にも自閉症の人が何人かいると聞いている。親御さん同様、もっと理解してあげないといけなかった。インパクトがあった。
- ・ 自閉症に対する認識は低いと感じるので、このような広告はよいことだ。自閉症の症状は様々違うが、マンホールの上を歩くのは(安心)、こういう訳があるんだということを理解してもらうことが大切ではないかとも思う。
- ・ 以前は、「落ち着きのない子」・「親のしつけ」などと思っていた。自閉症の認識が当時はなかった。
- ・ 障害を持った子の親の心痛は察するに余りある。国の保障の拡大、地域の理解があってほしいと考える。格差社会を軽減し、社会保障の充実を望みます。
- ・ 子どもを持つ親であれば自閉症のことを知っていて当然と思っていたので、広告を見たときどうして広告が掲載されているのだらうと思った。今はドラマやドキュメンタリー番組で取り上げられ、理解されてきていると思う。
- ・ 広告でより多くの人に関心を持ってもらえるのでは？漫画「光とともに」を買い求めた。

## D 公開講座・講演会の参加者 ( は複数、 は多数、 は非会員の当事者家族の記述 複数、 は多数)

キャッチコピーがとっても深いですね。みんなが広告の意味を深く考えてくれればと思う。

自閉症の人には一生の支援が必要だと思うと、社会問題だと思う。広告により自閉症が理解されるとよい。2行の文章はとてわかりやすい。たびたび広告を目にすることで、少しずつ理解してもらえるのでは...と思った。もっとPRして障害を受け入れる環境ができれば...。まだまだ自閉症に関して理解不足や誤解がある。

すごくよい広告だと思います。自閉症についての考え方が変わるので、ぜひ多くの人に広告を見てもらいたい。高機能自閉症についてはじめて知った。小さいときになかなか発見されないようなので、親のショックが大変だと思うが、最近はこの分野の研究が進んでいるようなので期待したい。教育現場にどんどん広めていって下さい。

- ・自閉症に関わるボランティアをしている。2行のキャッチコピーに心打たれた。自閉症の子どもに関われば関わるほど、世の中にもっともっと理解が広がればいいと強く思う。
  - ・すばらしい！「病気ではなく、障害です」の一言は、本当にみんなに理解してほしいと強く願っている。4月から特別支援教育コーディネーターになり、7回このような講座に参加しており、公開講座で紹介された本を読み込む中で、制作者電通の尾崎さんと全く同じ気持ちになった。多くの人に困り感を理解してもらいたい。一定の理解が、その家族の心の支えにつながるはずだから...。(教員)
  - ・私自身自閉症について、正しく理解したのは数年前です。映画「マラソン」もみました。よかったです。
  - ・もっとこのような広告を発信してほしいです。親の切実な思いや愛情が伝わってくる広告です。
  - ・理解啓発の活動は、積極的に行うべき。障害特性や、関わり方の代表例など載せてみてはいかがでしょうか？
  - ・最近自閉症のドラマもあったので、自閉症という言葉を知るようにはなったが、障害内容まで理解されていない。
  - ・広告を見て、もっと自閉症理解を深め、ご両親と心をつなぐ子どもと接していきたいと思う。(支援者)
  - ・障害者への理解が少なく哀れみと差別の目がある。正しい知識を持って、自然な形で暮らしていけたらと思う。
  - ・自閉症の人にとって住みよい社会になれるよう、自閉症の人を知ってもらおうアピールが一般向けに少ないのでは？
  - ・広告を見るまで病気だと誤解していた。正しく認知されるためにAC広告は有効だし必要だと思う。
  - ・今まで、知られていなかったことがわかったり、様々なことが知られるようになりよいことだと思う。みんなの障害児を見る見方も変わり、温かな目で見られるようになるのではないのでしょうか。
  - ・明日は我が身という考えでいてほしい。「自閉症」という障害名が、周りに間違っただけで捉えられやすいと思う。文章も写真も静かにですが、深く感動を持って伝わってきて涙が出そうになった。広告が理解のきっかけになって、広く自閉症を一般の人が理解してくれればと願う。
- この広告で涙が出た。言いたいこと伝えたいことそのままでした。制作者の方の理解したい気持ちが表れていた。
- ・広告を見て涙が止まらなかった。子どもは高機能自閉症であり、周りばかりでなく、家族の中でさえ「思い過ごしだ」と言われ理解してもらえないことがある。目に見えない障害のことを、もっと世の中にアピールしてほしい。

## E 障害児教育専攻の学生 自閉症及び障害児・者の人と普段から関わりがある ( は複数、 は多数)

自閉症について地域で誤解している人は意外と多いので、とても効果的な誤解がわかりやすい内容の広告だと思う。自閉症は病気などではなく「障害」であることが理解され、自閉症の人と親が住みよい社会になればと思う。自閉症そのものを知らなかったり、誤解し偏見を持っている人はたくさんいる。目にするとこころにこのような形で自閉症理解を求め啓発していくことは大切だ。広告を見ることで、少しでも自閉症に対する考えが変わってほしい。

- ・自分の中で自閉症の子は身近な存在なため(あたり前すぎて)、子どもの苦悩や保護者を軽んじていたかもしれない。

## F 普段障害者に何らかのボランティアをしている人 ( は複数、 は多数)

理解してもらうには、このような機会を通して関心を持ってもらうことで地域の中で生活がしやすくなる。

自閉症が正しく社会で理解されていないことを痛感(職場の中で誤解している人がいた)した。ボランティアを通して理解したことを人に話すように心がけている。ほんの少しの理解と支援があれば、社会で生活がしやすい。見る人を引きつける広告を見逃し残念。一般の人より自閉症児を理解していると自負していたが、いろんなタイプの人がいって果たしてそうなのかと反省している。実際にどう接するとよいのか、よくないのかも知らせてほしい。

- ・自閉症の子どもたちと関わっている。それぞれ違うタイプの子どものために、関わり方を配慮し分かり合えたとき、何かを一緒にやり遂げたときの充実感と喜びがあり、ボランティアは生活の一部になっている。理解を示し、ふれあう機会が増え関心を持ってくださる人が増えてほしい。

**G 子育て中の保護者** ( は複数、 は多数、 は非会員の当事者家族の記述 複数、 は多数)

(園では統合保育を行っており、自閉症ではあるが非会員の家族もいる)

- 自閉症は生まれつきの障害だということを知らなかった人には、広告は知っていただくにはよいことだと思った。引きこもりに近いものだ(あるいは心の病・病気だから治る)と思っていたので、この広告で認識が変わった。自閉症に対する正しい知識と、どのように接するのを知りたいと思った。少しでも誤解が減ってほしい。
- 新聞広告は見逃したが、人が集まる場所、テレビなど様々なところで目や耳から入れば、多くの人に知ってもらえると思う。友人の子どもが自閉症ではないかということもあり、この機会にもっと勉強したいと思った。自閉症だけでなく、他の障害についてももっと多くの人に理解してもらえれば社会になってくれたらと思う。この広告はわかりやすい言葉で、自閉症の特性を書いているのでよいと思う。このような新聞広告を使って学校の授業に役立てて、より障害に対する偏見をなくしてほしいと思う。
- 自分も最近まで誤解していた。「自閉症」という障害名が、社会に「引きこもり」「心の病」というような誤解を与えているように思う。この障害を意味する言葉としては、不適切だと思う。
- 年配の人の中には、自閉症は親のしつけが原因だとまだ思っている人もいる。最近ではテレビドラマで自閉症を知る機会は増えているが、理解するまでには至っていないのが現実だと思う。
- 園に通って、自閉症児の親と仲良くなり関心を持った。接し方などを知り、もっと知識を高めたい。インパクトがあった広告だと思う。障害の害が「障がい」と平仮名だともっとよいと思った。
- とてもわかりやすい広告で、心に響き、印象に残った。見逃したが、新聞を探し見たいと思った。「自閉症は障害だ!」ということをもっと広告すると、社会の理解が深まると思う。テレビでも放送してほしい。
- 今までは人ごとだったけど、この広告を見て改めて考えさせられた。理解が広まることを願っています。自分が親になるまで、自閉症を初めとする障害に関心なかった。今回のアンケートで、接し方がわからないので、接し方の例を詳しく知りたいと思った。また、周りの理解が必要であることを考えさせられた。
- ・新聞広告でたくさんの人に知ってもらえることはよいと思う。小学校時代担任の先生が、自閉症を「心の病」と説明していた。子ども心に「治るのかな?」と思った。もっと世間に知られ浸透するようになればよい。
  - ・まだまだ多くの人が自閉症を誤解していると思う。特徴が様々で気がつかないことも多いため、広告で知ってもらえることはよいと思う。障害は目には見えないので難しいが、理解を深めることは大人も子どももできる。
  - ・テレビで簡単に、自閉症の特性など知る程度だった。自閉症の人と触れあうことがなかったので、自閉症が障害だと理解することと、この広告から自閉症の人と触れあう時の心構えみたいなものができた。
  - ・園便りから知る機会はあったが、広告の中に知らないこともあった。このような啓発は大切だと思う。
  - ・自閉症の子を持つ親に知り合いがたくさんいる。みんな大変なことがあるだろうけど、明るく頑張っている。子ども達も素直だ。今後も広告で、親子が安心して生活ができるよう、地域の人に理解と協力をしてもらいたい。
  - ・広告を読んで、はじめてその立場になった時のことを考えさせられた。
  - ・自閉症の子ども達が増えつつあるので、学校や社会で安心して暮らせるために理解を深めてもらうことは必要だ。
  - ・一見してもわからないため、誤解していた。知らない人にとってこの広告は、大変わかりやすかった。
  - ・自閉症を病気だと思っている人が多く、子どもの中には親からうつると教えられている子もいる。もっと多くの人に、自閉症は障害だということを広く知ってほしいと願っている。
  - ・自閉症は一つの個性(自分の子も人混みで叫んだり、こだわりがあったり同じなので)だと思っているが、家族の負担ははかりしれません。全ての人を受け入れられる和やかな世界になってほしい。
  - ・昔から自閉症の人はいたと思うが、接したことはなかった。広告によって自閉症の認知と理解が促進され、障害のあるなしにかかわらず、共に生きる社会になっていければと思う。AC広告から自閉症を勉強させてもらいたい。
  - ・子どもを持つ親に知ってもらい、子ども達に理解してもらえることが大切。自閉症でも、通常学級に通級する子どもも多いと思う。子どもと過ごすクラスメイトに理解がなければ、楽しい学校生活が送れないから。
  - ・今まで自閉症の子と触れあう機会がなかったが、外出先や病院で出会ったら交流の機会を持ってみたいと思う。
  - ・AC公共広告機構の広告は、いつも何かを訴えてくる感じなので、多くの人々の理解が広がることを願っている。
  - ・世間の理解が得られないのは、他人だから。自分にふりかからなければ、本当の大変さはわからない。
  - ・街で見かける「何か違う人」を見ると、私でも何をされるのかわからないから怖いと思ってしまう。障害の理解をしてもらうことで偏見の目をなくし、自由に外出ができる世の中になってほしい。
  - ・高機能自閉症、アスペルガーの理解向上の広告もしてほしい。
  - ・これから厳しい社会で生きていくには、たくさんの方々の理解と協力があれば地域生活を可能にする。コミュニケーションの取り方では、お互い分かり合えることもある。そういうことが、障害者、健常者のバリアを取り除くと思う。

テレビの特集(今回の広告等で)で知る機会があり、それ以前は親の育て方のせい(病気・引きこもり)と誤解していた。自閉症理解が進み世間に周知されると、親も子ども気を遣わない社会生活ができる。理解が進むとよいと思う。社会では間違った認識が浸透しているので、AC広告で啓発し関心が高まり社会が受け入れやすくなることで、当事者家族が外に出て行けるようになることを願う。少しでもお手伝いできることがあれば...

いろいろな場所や新聞でたびたび目にするがあると、自閉症への意識がそのときだけでも変わる。もっと広告を目にする機会が増えて、自閉症理解が広がることを願う。

障害者の社会の偏見を感じる。今回のことでメディアを通すことで、多くの人々の理解につながってほしい。広告を見ただけだったが、アンケートに協力し思い出した。自閉症の人に出会ったら偏見を持たずに接していきたい。自閉症について誤解(心の病・病気・しつけ・引きこもり)していたので、障害と知って驚いた。「自閉症になったんじゃない。自閉症に生まれてきただけ」というキャッチコピーが心に響いた。

どこかで他人事だと思うことがあったが、広告を見て、もし自分の子ならと考え、今後温かい目で見ていきたい。自閉症に関するポイントをわかりやすく広告しており、写真と文章のバランスがインパクトのあるものになった。様々な情報で知る機会(テレビや園のプリント)はあったが、どう関わると手助けになるのか知りたいと思った。身内に自閉症(ダウン症)の子がいる。AC広告を見て、その通りだ!一人でも多くの人に理解してほしいと思う。漢字のイメージで自閉症 = 「心を閉ざす」・「引きこもる」と誤解される。障害名を検討してみても?

何かきっかけがあると、自閉症について興味や関心を持ってもらえると思うし、自閉症は様々なタイプの人がいるので広告の継続が必要だと思う。

普通の子育てでも大変なのに、周りの理解がなければ親の負担は大変だと思う。何か手伝えることがあればと思う。最近自閉症という言葉をよく耳にするようになった。実際に触れあう機会もないため、知識として知っても理解することは難しい。自閉症の人たちが暮らしやすい社会になることを願う。

- ・知り合いに自閉症の子がいて、勉強会に参加した。興味関心が無ければ、広告にも興味が向かないのでは?
- ・自閉症の人に関わる仕事に就いていた。機会があれば勉強しつつ、理解を広めるためのお手伝いができればと思う。
- ・以前住んでいたアパートの子が自閉症で、周囲の理解が得られず引っ越した。周りの理解は必要だ。
- ・医療職のため、自閉症の特性も知っている。広告の写真を見て、外見では障害がわかりにくいことを再認識した。
- ・自閉症の子どもに出会ったことがあり、見た目には普通でもパニックを起こしたり、いなくなったりでその子のお母さんの姿が目には焼き付いて忘れられない。気軽に頑張れとは言えないけど、乗り越え笑って過ごせる日を願う。
- ・子どもの同級生にいたが、周りの親の理解がなく辛い思いをし、かわいそうだった。負けずに頑張してほしい。
- ・道南は障害者に対する理解と関心が高いように思う。子どものうちから偏見を持たないように育てていきたい。
- ・たくさんの当事者家族が悩んでいると思う。いろんな媒体を通し、社会に情報を発信していくことを願う。
- ・見た目では判断がつかないので、難しい障害だと思った。
- ・自閉症に関わる仕事をしていても難しさを感じる。関わりがない人ではさらに難しい。広告の継続を期待する。
- ・自閉症だけでなく、相互交流し理解し合うことで思いやりが育つ。子ども達の時代にはそれがあたり前のオープンな社会、いたわりの心で接することができるよう願う。理解が深まるようメディアでもどんどん取り上げてほしい。
- ・光とともにの漫画で、全て誤解していたことを知り調べて(自分の子も自閉症じゃないかと疑ったこともあり)みた。自閉症についてたくさんの人の目に触れるよう、もっと新聞に掲載してほしいと思った。関わり方も知りたい。
- ・社会はいろんな人がいてあたり前。理解してみんなが平和で、幸せに暮らせるようになれることを願う。
- ・障害者の人たちが堂々と開き直り、未来の障害者のために強くならなければ偏見は消えない。地域の行事を通し人との関わり合いの場が、理解へとつながる。時間をかけなければ、地域は変えられないし同情では変わらない。
- ・以前テレビドキュメントで見て、大変驚いた。身近にいなくても、みんなで温かな目で見てあげることはできる。
- ・大きな紙面での広告で驚いた。改めてもっと多くの人々の理解が必要だと感じるので継続して広告をするべきだ。
- ・普段身近に自閉症の人がいないので、事例や関わり方を掲載することで理解が深まる。
- ・本人の問題だと思っていたが、広告で誤解していたことに気がついた。自閉症の人への気持ちが広告で変わった。
- ・性格ではなく障害だとすれば自閉症の人に罪はなく、一人でも多くの人に理解してもらうことが必要だ。
- ・自閉症のことを知らない人、関わったこともない人もいて関心のない人ともいると思う。知ってもらえるよう自閉症の情報を提供してほしい。ホームページをみてようと思う。理解者の一人になれるよう関わっていきたい。
- ・娘の通う園では、障害のある子ども一緒に通園しており、幼児の段階から、自然に認知しあえる環境に意義があると感じている。大人はもっと積極的に知り、そして理解し受け入れる姿勢をと思う。
- ・親になって「自閉症」が障害ということを知った。今まで出会った人に、自閉症だったと思われる人がいた。当時は今のような認識で関われなかった。子どもにも自閉症について理解し助け合える環境を作っていきたいと思う。
- ・自閉症がわかりやすく説明されている広告だ。この広告をポスターにしてぜひ人目につくところに貼ってほしい。

## H 療育機関の保護者（障害は自閉症・ダウン症・肢体不自由など様々）（ は複数、 は多数）

非会員と思われる当事者家族は青 他の障害と思われる家族は赤 回答者がどちらかがわからない家族は緑

涙が出そうになった。実際に子どもを持っている人は興味深く読んだが、そうでない人にもわかってもらえるとういと思う。シンプルな広告だけどとても印象的だった。できることなら自閉症をもっと身近に感じてほしい。自閉症児の親として、AC公共広告機構のテレビCMでも取り上げてほしい。AC広告は心に残る広告だから。なぜか泣けてきた。障害を多くの人に理解してもらいたいと思う。

この広告をたくさんの人が見て理解してくれたら、病院・公園・デパートに子どもと出かけやすくなる。

この広告を見て、誤解されていることをわかりやすく説明しており、知らない人に説明するときに使おうと思った。

- ・ 医師にでさえ病気と言われた。一見普通の子に見える自閉症、他の人に理解されにくいため広告は有難いと思う。
- ・ 子どもが軽度の自閉症。自閉症という現実を受け入れた今、たくさんの人に自閉症を知ってもらいたいと願う。
- ・ 「自閉症になったんじゃない。自閉症に生まれてきただけ」の言葉にむねがしめつけられた。子どもはアスペルガーか高機能自閉症の可能性があると医師に言われた。軽度なためほとんど周りの理解がない。言葉でうまく伝えられないもどかしさを、このキャッチコピーが明瞭に表現してくれた。一人でも多くの人に理解してもらいたい。
- ・ 外出先で大声で話したり、大暴れをするかと思うと気を遣い疲れる。自閉症と書いたプレートを首から下げた方がよいのかと思うことさえある。周りの人の理解が無く、ただじっと白い目で見続ける。「自閉症という障害があり、理解して下さい」と大勢の人の前で言う勇気はないが、どうしたら自閉症を理解してもらえるのでしょうか。
- ・ はじめは隠したいと思ったが、子どもにはよくないと思った。周りに知って協力してもらいたいので広告は必要だと思う。自閉症は一人ひとり異なるため対応も異なる難しさがある。新聞以外でも広告してもらえたらと思う。
- ・ 実際に育てている実の親であっても、子どもが軽度な場合は、会話も成り立つしある程度の意思の疎通ができるため、自閉症という障害を受け入れるのに時間がかかる親もいる。親でさえ理解し受け入れるのに時間がかかるのだから、障害の子を持ったことのない人に受け入れてもらうことは、かなり難しいことだと考えている。自閉症は障害だとは思っていなかったの、アンケートを読んでよかった。理解してくれる人が増えてほしい。障害のある子の子育てには、他の子より多くの助けが必要だ。より多くの人に自閉症を知ってもらうことが大切。
- ・ 自閉症の子を持つ親は周りに迷惑がかかるからと家にこもりがちになる。子どもにいろいろな経験をさせるためにも、少しでも多くの人に理解してもらうことが必要だ。このような啓発を今後も続けてほしい。
- ・ 新聞広告は見逃してしまいましたが、今後は気をつけて新聞を見たいです。心に響く広告ですね。
- ・ 全くその通り。この広告を見て多くの人が理解してくれたら、自閉症の子ももっと気が楽になれるはず。
- ・ 外見は普通のため、パニックを起こしたとき驚いた。接し方がわかれば楽しく遊べると思うが、関わり方が難しい。
- ・ 自閉症を誤解していた。障害のある子が成人したとき、どんな仕事について自立しているのか知りたいと思った。
- ・ 文章が簡潔にまとまっていて、読んでみようという気になる人は多いと思うしわかりやすい。これからも継続を！
- ・ とてもわかりやすかったが、自閉症を知らない一般の人の意見を載せた方が読む人に伝わりやすいのではないかな？
- ・ 以前うつ病のテレビCMがあったが、自閉症も同じように取り上げるといいのではないかなと思う。
- ・ 自閉症は障害だということはわかりやすかったが、プラス面と一人ひとり異なることを書いてもいいのでは？
- ・ たくさんの人に自閉症を知ってもらいたいと常々思っていた。この広告には感銘を受けた。今後も続けてほしい。

## I 行政（ は複数、 は多数）

一般にはまだ親の育て方などの誤解が多く、研修会講師の際には必ず先天性の脳の機能障害であることを説明している。正しい理解を促進するためにも、当事者がアピールすることは大切だと思うので継続してほしい。

広告で再認識した。障害名が自らそうだったとの印象を受けやすいので、理解しづらい。名称変更を考えては？知人の子が自閉症で広告を見て重なった。少しでも多くの人に理解が得られるよう願います。

自閉症について誤解していたことを知った。もう少し早く知っていればと思う。キャッチコピーが印象的だった。

- ・ 子どもは家族だけが育てるものではなく、改めて社会が育てる必要があると感じる。社会の理解と愛情があれば。
- ・ 自閉症について正しく理解する場が必要。福祉というと素人が何か踏み込めない領域があるように感じられる。
- ・ 広告を見て時代が変わったと思った。一般への周知は必要でとても大事だと思う。
- ・ 自閉症という障害があることと、特性がどのようなものか社会的な認知度が低いということを改めて認識した。
- ・ 広告を出さなければ理解が広がらないという現状を感じた。身近な問題であるのに相互理解が必要だと感じた。
- ・ 理解の第一歩としてはよいと思うが、自閉症の人のプラス面や長所の部分もふわっとわかるほうがよい。
- ・ 自閉症協会の活動内容も、広告と一緒にPR活動してみてもいいかな？

- ・自閉症と言われなければ気がつかない。頭の中では理解していても接し方がわからないので理解を深めたい。
- ・広告で自閉症を障害だと知った人はたくさんいる。いろんな障害を持った人がおり、自閉症だけが特別ではない。
- ・障害という言葉に差別と偏見を感じて自分の子どもには「病気だよ」と教えていた。いけなかったのだなと思った。
- ・幼児期・学童期にかけて、本人や家族が安心して生活できる環境が必要と感じた。
- ・広告を見て、社会全体が自閉症を理解し温かく見守る必要性を感じた。国レベルで親亡き後も安心できる手だてを。
- ・自閉症が生まれつきの機能障害という認識がなかった。家族も同じで一般に知ってもらう必要があると痛感した。
- ・彼らは、限られた自己表現の手段の中で、精一杯自分を主張している。社会の角度を少し変えてみているに過ぎない。私たちが、もう少し心にゆとりと柔軟性を持つことで完全ではなくても彼らのことを理解できると思う。
- ・自閉症に限らず大切なことは、正しく理解されること、そして関心を持つこと。社会の中の差別や偏見のものは、無関心と無理解。気づく、知る、関わる機会を社会の中に意図的に作る必要があると思う。

## J 支援機関（ は複数、 は多数）

広告全体のセンスが良く、自閉症の子の特徴を捉えている。見たままの自閉症の雰囲気が出ていてプロってすごい。キャッチコピーが胸に残った。どこか曖昧に勘違いされがちな捉え方が、違和感なくこの一文で理解できた。広告を通じ一人でも多くの方が、曖昧ではなく正しい理解をし自閉症の人が生きやすい社会になるようにと思う。日々関わりの難しさを感じる。関わりのない人はさらに関わりの難しさを感じると思うので啓発を継続してほしい。障害に対する社会の認知度の低さを考えさせられた。自分に何ができるか、何をすべきか考えさせられた。自閉症だけでなく、障害に対する偏見が無くなり住みよい社会になってほしい。

自閉症というものが身近なもので、けっして遠いものではないと改めて思ったが広告が必要な現状を再認識した。仕事で関わりがあるので関心があるが、一般の人は関心が少ないように思う。PRはとてもいいこと頑張る！限られた紙面で自閉症の全てを伝える難しさはあるが、キャンペーンのような形で継続的に成人になるまでを伝えられたらと思う。困っていること、苦手なことだけでなく、ポジティブに自閉症の人の「良さ」も伝えてほしい。とてもいい広告を出してもらって嬉しかった。継続して定期的にAC広告を出してほしい。

ひとと君やかねすけ君と同じ世代の子どもたちの教育に携わっている。多くの人に自閉症という障害の存在を理解してもらいたい。その一方で、「自閉症の子どもたちは、地域の一般の人々からどんな理解や関わりがあれば暮らしやすいのか？」について、「こんな関わり方をするとよい」といったメッセージ性が強くあって欲しかったとも感じた。見えにくい障害であるから、正しく理解することを大事にし、この地域で一緒に暮らしていきたい！

- ・AC広告は様々な広告でインパクトのあるものを出していますが、今回もかなりインパクトのある広告だ。
- ・同じ人間としてもっと力になればと思う。彼らを通して人間として学ばなければならないことがたくさんある。
- ・自閉症の子の写真掲載に驚いた。多くの方が興味と理解を示してくれたらと思う。身近に自閉症の人がいるから。
- ・AC広告だったことに驚いた。写真が大きく目を引いたが、文字がもう少し大きいと老人の方も読みやすいと思う。
- ・障害児を育てているご家族をいろいろな面でサポートできる場所がもっと身近にあるとよい。
- ・とても切なくなりましたが、同情ではなく現実を受け止め、正しい理解が必要だと感じた。
- ・公共広告機構の役割について知らなかったが、今回の広告で具体的なことがわかった。理解が広がってほしい。
- ・外で自閉症の人に会うことがある。周囲の目は冷たいのが現状だが、仕事を通して一般の人に理解を深めたい。
- ・様々な特性があるので、固定観念にとらわれないよう、柔軟性を持って最新の情報を更新していきたいと思う。
- ・メディアに広告を取り上げてもらったことで、ようやく世の中が「自閉症」に追いつきつつあるのかと思った。
- ・「障害」です、その通りなのだけれど違和感があった。言い切らなくては理解されない社会に対してかもしれない。
- ・障害と病気とは異なるという点を柔らかく伝え、障害ということも柔らかく伝えている。
- ・知人の中には「小さい頃テレビを見過ぎたから自閉症になった」と思っている人もいて、認知度は低いと思う。
- ・ACのテレビ・コマーシャルはインパクトがあるので、CMになってテレビで放送してほしいと思った。新聞広告に掲載されたのを見て感動した。理解が少しでも広がってほしい。
- ・新聞広告は非常によいと思うし、テレビCMやインターネットCMでもいろいろ知ってもらうことはとても大事だと思う。自閉症の人に必要な構造化の普及も、みんなに知ってもらえればあたり前になると思っている。
- ・自閉症のことで多くの人に知ってほしいことは、一番目は「コミュニケーションの苦手さ」です。常識的に「あれっ」と思う行動があるのは、本人が伝えたくて意味があってやっている。しかし相手にはそれが伝わらず、変な目で見られたりし本人はもどかしくて辛い思いをしている。周りの人が「もしかしたら？」と想像力を働かせてくれたら、本人・親・家族も少しは楽になれる。「もし自分が自閉症で、自分の思いをうまく伝えられなかったら…」と考えさせるような、そんな効果的な広告に期待します。



・「自閉症だから自閉症に合わせた支援が必要です」支援センターに勤務してからこのことをなにとなく説明し続けてきた。“なにやってんの！”・・・そんなこといわれたってさ。“だめでしょ、そんなことしちゃ。”(・・・どうすればいいの?)そんな声にならない言葉がたくさんあることに気付いたのは就職して、この人たちと接する仕事についてから。一般にはあまりその大変さはわかりにくい。だから知っている人は訴え続ける。自閉症だったら、伝わらなくてもいいの？自閉症だから困っていてもいいの？見えない障がいは他にもあるが、障がいがあることが重要なのか？その人はどんな見え方をしている、どういった解釈をしたのか。本当に一人ひとりにあった、適切な支援の必要性をこのポスターから感じさせられる。より多くの人たちに今回のポスターを「一見」していただきたいと願う。そして、「一見」した支援者は、かねすけ君の笑顔を絶やささないよう努力すべきである。

以上のご意見は、昨年 AC 公共広告機構の「自閉症」理解と支援キャンペーン新聞広告掲載後に、日本自閉症協会北海道支部道南分会が実施したアンケートに寄せられた声をまとめた。回答者1038人のうち、自由記述に記入した人は651人だった。寄せられた声は、機関ごとにまとめているが、個人が特定されることのないように一部編集した箇所もある。また編集の都合上、同意見については読みやすいようにまとめて掲載した。多くの方々にご協力いただき、様々な方からたくさんのご意見を頂戴した。今後、啓発活動については貴重なご意見を参考に道南分会の活動に生かしていきたい。改めて、多くの皆様にアンケートにご協力いただくことで、自閉症者に思いをはせていただき、さらなる自閉症へのご理解とご協力の申し出など、温かな思いをかけていただきましたことに、心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思う。

2007年4月  
(社)日本自閉症協会  
北海道支部 道南分会